

三津の朝市と慰問活動にがんばるパワフルかあちゃん
～地域に笑顔の花を咲かせよう～

松山市漁業協同組合女性部
香川 ふじ子

1 地域の概要

愛媛県松山市は、瀬戸内の穏やかな気候に包まれ、松山城や三千年の歴史を持つ道後温泉など歴史的な名所があり、お遍路文化が育んだ「おもてなしの心」が息づく街である。

私たちの住んでいる松山市三津浜には、映画などでも使われる三津の渡し船や、明治・大正の浪漫あふれるレトロな建物も残っており、そんな古き良き町にあるのが松山市漁業協同組合である。

2 漁業の概要

松山市漁業協同組合は昭和 41 年に設立され、平成 27 年 3 月現在、正組合員数 123 人、准組合員数 83 人で職員 1 人である。主な漁業として、一本釣り・刺網・小型底引き・はえ縄・採介藻・ごち網等を行っている。



松山市三津浜の内港

3 研究グループの組織と運営

松山市漁協女性部は昭和 43 年に結成され、現在の部員数は 35 人である。松山市漁協は地区制となっており、11 地区で形成されている。現在の女性部はその内の 8 地区から集まっており、部員の皆さんと話し合いを重ねながら、共にさまざまな活動を行っている。

主な活動内容は、①海浜清掃および美化活動 ②施設慰問 ③販売活動（イベント参加）などであり、「仲良く楽しく」をモットーに活動を行っている。



美化活動



施設（デイケア）慰問

4 研究・実践活動の取組課題選定の動機

私たち女性部には昔から踊りの上手な部員が多く、地区の忘年会や新年会で披露していた。そんな中 17 年前に、障害者施設から慰問依頼の話が舞い込んだ。自分たちの楽しみのための活動が、慰問という形で披露できるのかと最初は悩んだが、地域の人たちが喜んでくれるならと施設慰問を決めた。

一方で、女性部員は減少し続ける中、組合からの助成金が一度は停止され、女性部は消滅の危機に陥っていた。しかし、女性部がこのまま無くなっても良いのだろうか、施設慰問以外で新たに何か活動してみたいと考えているところに、2 年前、三津浜地域活性化のために創設された「平成船手組」^{へいせいふなでぐみ}から、松山市水産地方卸売市場で開催される、三津の朝市「旬・鮮・味まつり」に参加してみないかとの声が掛かった。

自分たちの漁獲物を商品にして販売できるのである。私たちは迷うことなく、すぐに参加させてもらう事にしたが、新しい取り組みに私も部員も不安と期待でいっぱいであった。

5 研究・実践活動の状況及び成果

(1) 施設慰問

夫婦で小型底びき網漁業をしている女性部員が、障害者施設へ慰問を始めたころは、部員が捕ってきた魚を持参し、施設の皆さんと一緒に昼食を食べていた。漁の合間に楽



障害者施設訪問（平成 10 年）

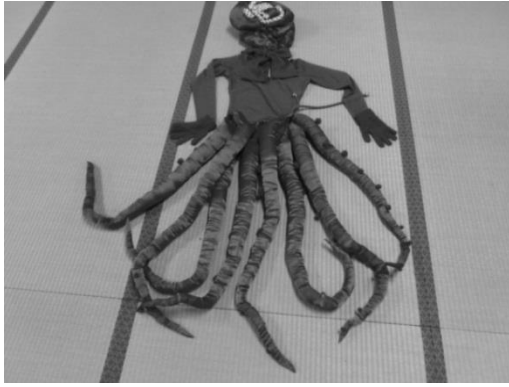
しみてやっていた余興が、施設の方々に喜んでいただき、私たちもうれしく思っていた矢先、4 年目からは老人ホームから声が掛かるようになり、少しずつ訪問先を増やしていった。幸いなことに口コミで私たちの慰問活動が広がり、現在では年間 18~20 カ所の施設を訪問している。なかには、10 年継続訪問した実績を表彰してくれた施設もある。

慰問活動は 10 月の活動計画の話し合いから始まる。毎年 10 月~12 月、漁を休んでいる日に三津地区の集会所に、午後 1 時から 4 時くらいまで集合し、企画と準備、練習を行う。

- ① 新年度の新プログラム演目を決める。
プログラムは 1~10 演目で構成。
- ② 曲に合わせて振り付けを考えながら、踊りを練習。
- ③ オリジナルの手作り衣装の作成。
- ④ 小道具と小物（髪飾りなど）を購入。



練習風景



タコの手作り衣装



魚の衣装で老人ホーム慰問

1月～6月、臨時休市の前日と土曜日を利用し、月に2～4回、地元の各老人ホーム、時には離島の施設まで出向く。毎年5月に開催される愛媛県漁協女性部大会でも、私たちの踊りを披露している。

7月～8月は小型底引き網漁業もエビが乗り忙しく、おまけに夏の暑さで身体がもたないため、活動を中止している。

9月～10月は、三津浜地区の敬老会と文化祭には毎年必ず出演し、他の地域で敬老会の依頼がある場合も出演している。以上が、1年間のスケジュールである。



離島の施設訪問（フェリーで移動）



慰問風景

デイケア施設では、「家に1人であっても笑うことがほとんどないよ。今日は1年分、笑わせてもらったわ。ありがとう」と握手の手を離さないおばあちゃん。「また来てや」と泣くおじいちゃんなど、いろいろな反応が返ってくる。

最後のあいさつで必ず「来年もまた来ます。それまで、元気で楽しみに待っていてください」と言うと、「絶対来てよ。はよ来てよ」「ありがとう。楽しみにしとるけんね」「仕事気を付けてがんばってよ」と、たくさんの掛け声が飛んでくる。

慰問活動はボランティアとして行っているが、目の前の人たちが喜んでくれる姿を見ると、疲れは吹っ飛び、感動を味わうことができる。部員一同、身体の動く限りがんばりたいと思っている。

(2) 販売活動

17年以上も慰問活動を継続していたおかげで、部員間の団結力は強まり、計画、実行、次への反省などを女性部だけで取り組むノウハウができていた。そこで、三津の朝市で

の販売依頼があった時も、女性部でこのイベントに協力し成功させようと、まず役員会を開き、地域の人と連携を深め、魚食普及を目的に、また、地元の市場を盛り上げるために、三津の朝市のイベントに参加することを決定した。

しかし、今まで食品販売に取り組んだことがなかったため、魚食普及で何の水産物をPRしようか、どこで何を作り、安全に製造販売するにはどうすればよいか、といったことから検討した。

そこで、私たちの組合の小型底引き網で捕れる鯛とタコに注目し、昔から地元で作られている鯛めしとタコめしを作ることにした。愛媛県は鯛の生産が日本一であり、私たち



愛媛の鯛（生産日本一）

の漁協でもよく捕れる魚である。また、タコは今出港で昔からタコツボ漁が行われるなどなじみがあり、鯛めしと同じくらい私たちの地域ではタコめしも良く食べられている郷土料理である。若いお母さんたちは、鯛をまるごと一匹使った鯛めしなどを作ることは、ほとんどないと思い、若い世代にも、郷土の味をぜひ受け継いでほしいという思いで決め、鯛とタコを10kgずつ用意し、各200パック（1パック300g300円）を販売することを目標とした。商品が決まると、次はどこ

でどのように作るかを話し合った。場所は、三津地区の集会所を借りることに決定し、道具は集会所にあるものを利用したが、大量に作るイベント対応用の5升釜については、わずかに残っていた女性部のお金で新たに購入した。

また、安全に製造販売するためには、製造・調理・販売等が衛生的に行われる必要があると考え、食品衛生責任者講習会を受講し、資格を取得した。

イベント当日は、午前9時の開場と同時に販売を開始したが、毎回2時間ほどで完売してしまうほどの盛況ぶりであった。鯛めし、タコめしをメインに、季節に併せて小エ



役員会風景



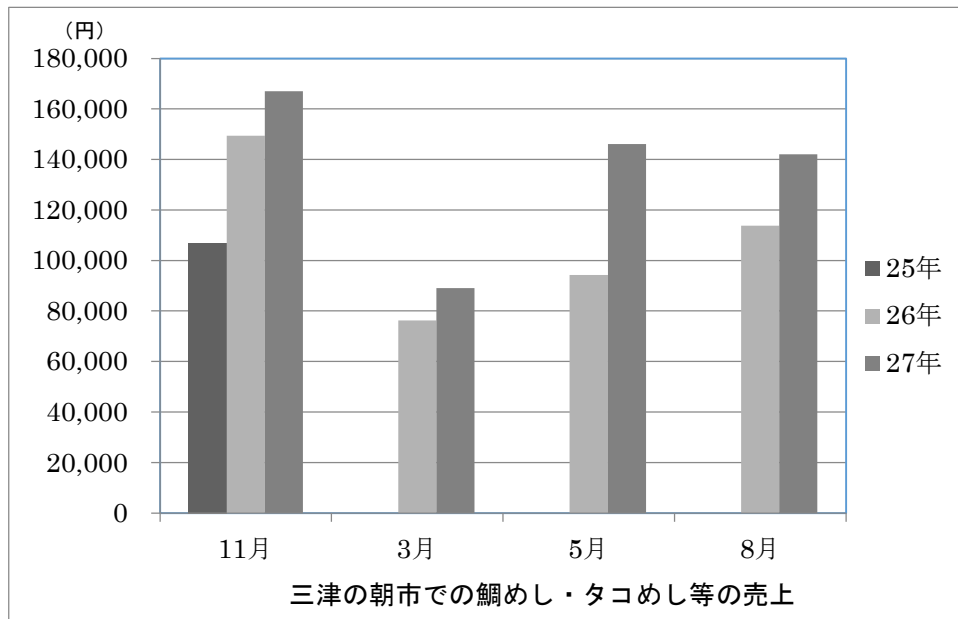
集会所で鯛めしづくり



鯛めし

ソのフライ・エビのかき揚げの実演販売や小イカの煮付けなどを販売し、地元地域の人たちと協力してイベントを盛り上げた。

イベント1回当たりの売上12万～16万円のうち、経費が約半分かかるが、販売活動終了後、協力してくれた女性部員で反省と慰労を兼ねての昼食会を開き、引いた残りの金額を、収益として女性部の会計へ計上している。



そんな中、私たちの販売活動を愛媛県漁協女性連役員会で紹介したところ、県のシービジネス販路拡大事業という、商品の販路拡大を目指す女性部に対して補助する事業があることが分かり、東京でのテスト販売を新たな目標とした。

そして、平成27年3月、東京新橋にある愛媛県アンテナショップ「せとうち旬彩館」で2日間、鯛めしとタコめし、小イカの煮付けの実演販売を行った。初めての取り組みのため、販売量や方法、価格などを検討し、のぼりやチラシ等も用意した。検討した結果、鯛めしとタコめしを各100パック（1パック300g 350円）、小イカの煮付けを60パック（1パック150g 300円）で販売し、完売することを目標とした。実演販売を通して感じたことは、地元とはまた違った感想を聞くことができ、東京では愛媛といえば鯛というイメージが強いせいも、タコめしよりも鯛めしがよく売れ、小イカを初めて口にしたいという人が多かった。販売結果として、実演販売が良かったのか、目標は達成し、小イカの煮付けはパックに入れるのが間に合わないほど大人気であった。鯛めしに関しては「今まで食べた鯛めしの中で一番おいしかった」と言って、翌日に5パックも購入していただいた時が、一番うれしかった。

また、小イカは旬彩館のレストランの料理長に試食してもらい売り込んだところ、季節の一品料理として取り扱っていただき、小イカと大根の煮付け、天ぷら、から揚げが期間限定で販売された。



東京アンテナショップで販売（平成27年3月）



小イカの煮付け

6 波及効果

(1) 施設慰問

高齢社会となり、老人ホームや介護施設も年々増加している。私たちの慰問活動は、ますます歓迎されていくと考えているため、今後も、福祉社会とともに歩んでいきたい。

今後も、私たちは、地元の人たちと協力し、地域に密着した福祉活動の継続、慰問活動を通して地域の福祉に貢献していきたいと考えている。

(2) 販売活動

捕れたての新鮮な魚で作った商品は好評で、女性部の知名度もアップしている。

小さな子供連れの親子が鯛めしを追加で買いに来てくれたりすると、魚のおいしさを知ってもらえたことをうれしく感じ、魚食普及につながる活動にも取り組めたと感じた。また、地元の人たちと一緒にイベントに参加することで、交流ができ横のつながりも増え、慰問だけでなく、新たな活動を通じて



三津の朝市で魚食普及

女性部員の団結力が、ますます強くなった。イベント販売には慰問活動以上にたくさんの部員が参加し、女性部の活動が認められたことで組合からの助成金も復活した。

(3) 女性部員の活躍

今年、私たちの松山市漁協の理事に女性部員が就任するといううれしい出来事があった。イベント販売でも、いつも熱心に参加してくれる部員さんで、私たち女性部の意見を代弁して、理事会で発言してくれている。

これからも、時には女性部への厳しい目を持ちながらも女性の味方となって、漁協の運営に取り組んでいただけると期待している。

7 今後の課題や計画と問題点

今年で女性部が発足して 47 年がたった。今の目標としては、販売活動で得た収益を貯蓄し、発足 50 周年イベントを 2 つ計画している。1 つは、イベントの売上を貯めて部員全員で視察旅行に行くこと。もう 1 つは、今まで在籍していた女性部員と地域のお年寄りを集めて地元の公民館で演芸大会を開き、その時に自慢の鯛めしとタコめしを提供したいと考えている。

そのためにも一致団結して販売活動をがんばっているが、部員数が少ないことから、部員の負担が大きくなっていることが課題であり、現在、漁業者と関係ない人は部員にならないのが現状である。

しかし、漁業と関係なくても同じ地域に住んでいる人であれば部員になれる女性部が県下にはある。漁協女性部に興味を示している若手女性もいることから、私たちの女性部もそうなれるよう組合長と話し合いを進めている。

17 年間続いてきた慰問活動をさらに継続し、三津の朝市でのイベント販売にも積極的に参加・協力して松山の新鮮な鯛やタコをもっと PR し、地域を盛り上げて行きたい。



鯛・タコの衣装で三津の朝市イベント販売（平成 27 年 11 月）